

地域社会とともに

■ 継続的な清掃活動を通して、まちの美化システムに貢献



道東事業所では、札幌市西区が推進する「アダプト・プログラム」に参画しています。アダプト・プログラムとは、市民や企業などが道路や公園など公共の場所の里親(アダプト)となり、定期的・継続的に清掃活動を行い、行政

がこれを支援する仕組み。

事業所は活動主旨に共鳴し、毎年5～11月の各月の第二木曜日を活動日として、事務所周辺の道路等の清掃活動を行っています。

■ 交通安全の旗振りで、交通事故ゼロへ



道東事業所は協力会社と合同で、毎年恒例の「交通安全の呼びかけ」を行っています。平成25年10月に実施した交通安全の呼びかけは5回目を数え、事業所の社員3名と協力会7社10名が参加しました。

夕暮れが早まり視界も悪くなる10

月、市道路としても交通量の多い事務所前では、市民の皆さまに安全運転を心がけてもらえるように、旗振りで安全運転への注意を呼びかけました。

事故を1つでも減らせるよう、今年も春・秋の2回の活動を予定しています。

■ 清掃活動で観光の振興に一役



北海道の東部に位置する屈斜路湖・摩周湖は、美しい自然景観を残す観光名所として知られ、毎年多くの観光客が訪れます。

ゴールデンウィークを目前に控え、「屈斜路湖摩周湖畔線舗装構造改良工事」として湖畔線の工事を請け負った

道東事業所は、観光客を迎えるにあたり、現場沿線の清掃活動を行いました。

平成25年4月に、事業所と協力会社14名が参加し、沿道約4キロに落ちているゴミや空き缶などを拾いました。

■ 排除雪で交通障害を解消



釧路市音別市街地の道路を施工中の道東事業所は、平成26年3月に施工路線の除排雪作業にあたりました。

「本流音別停線舗装構造改良工事」の現場付近では、除雪作業によって路肩や歩道に堆積した雪が通行を妨げ

ている状態が発生。タイヤショベルやバックホーを使い、たまっている雪を排除し、排雪場へ運搬しました。道路の除排雪を支援することで、安全な通行の確保に努めました。

■ 清掃活動で湖岸の自然環境を守る



平成26年7月、日苦工事事務所と協力会社の社員約50名が参加し、北海道苫小牧市にある「ウトナイ湖野生鳥獣保護センター」周辺の清掃活動を実施しました。

雑草やゴミ拾い、雨水枡などを5班に分かれて清掃。1時間ほどで作業は

終了し、用意したゴミ袋はたちまち一杯となりました。この活動は社会貢献活動の一環として、ウトナイ湖湖岸の自然環境を大切にするべく、2010年より施設周辺の清掃活動に取り組んでいます。



■ 未来を担う小学生に道路工事の大切さを



平成25年11月、大石田町立大石田北小学校の「ふたば児童館童心クラブ」の児童24名が、山形県尾花沢市の「尾花沢新庄道路」で行っている「平成25年度福原地区舗装工事」の現場を訪れました。

国土交通省の「知ってなっとく！公共事業」の一環で開催したもので、日頃間近で見ることのできない大型建設機械に試乗したりと、建設工事への理解を深めてもらうよい機会となりました。

■ 「緑のカーテン」で小さなエコ活動



環境省で推進している「グリーンカーテンプロジェクト」。CO₂削減や夏の節電対策として、ゴーヤやアサガオなどの植物を育て、緑のカーテンをつくる取り組みです。

多摩事業所では、毎年、冷暖房器具

の使用を低減するため、事務所外壁にゴーヤを植えて「緑のカーテン」をつくり、直射日光による建物温度の上昇を抑えています。省エネに役立ち、地球にやさしい企業として、小さなエコ活動を行っています。

■ サポーターとして地域の美化に貢献

横浜事業所は、地域のボランティア団体と行政が協力し、身近な道路の清掃や美化活動を行う「ハマロード・サポーター」に参加しています。平成23年に横浜市旭区で14番目の認定団体

として加わってから、今年で3年を迎えました。

担当エリアである事務所付近の国道16号線の一部約240mを毎月1回、社員が交代で清掃にあたっていま

す。清掃活動を通じて、地域社会の一員となれるよう社会貢献に努めています。

■ 「ロードクリーン作戦」で道路をきれいに



平成25年9月、新潟事業所管内の「国道289号線9号トンネル舗装工事」の現場事務所付近で清掃活動を行いました。

「ロードクリーン作戦」と銘打った清掃ボランティア約50名のうち、当

社からは5名が参加。道路を利用される皆さまに気持ち良く使ってほしいという思いから、揃いのTシャツに着替え、沿道のゴミ拾いや歩道の草取りなどに汗を流しました。

■ 住民のくつろぎスペースを提供



圏央道幸手舗装工事作業所は、近隣の皆さまにご利用いただくことを目的に、事務所前に休憩用のベンチと日よけを設けています。事務所前がバス停ということもあり、日差しのきつい夏場にバスを利用される方々に活用されています。また、無料の自転車用空気入れも設置し、地域の皆さまに喜ばれています。



■ できることから始める清掃活動



国土交通省では、「道路を慈しみ、住んでいるところをきれいにしたいという自然な気持ちを、形あるものにしよう」という考えのもと「ボランティア・サポート・プログラム」を推進しています。この取り組みは、国・地方自治体・住民・企業グループなどが連携して行う道路の美化・清掃活動で、福知山事業所（現 福知山営業所）も参加し

ています。

平成26年1月に行われた清掃活動は、雪の降る中、事業所と協力会社の社員が参加し、国道9号線約700mのゴミ拾いや落ち葉の収集などにあたりました。沿道には、毎月1回行われる清掃活動を地域の方々に周知する看板を配置しています。

■ 自社の強みを活かした社会貢献活動



「尾道・松江自動車道敷地舗装工事」の現場では、自社の強みを活かした様々な地域貢献活動を行っています。

まずは、災害時など地域への支援、行政などによる救援活動への協力です。工事期間中、異常気象時に迅速に対応できるよう、大雪その他警報発令時には、三次市向江田町から現場付近の一般国道や周辺道路のパトロールを自主的に行いました。平成26年2月には、国道184号から現場へのアクセス道路が積雪により通行困難となったため、モータグレーダ2台とタイヤショベル1台による除雪活動を

実施。こうした自主的な救援活動が、地域住民への支援につながりました。

つぎに、地域住民とのコミュニケーションへの取り組みです。今回の工事で地域の方々に何か恩返しができないかと、敷地地区の地元意見交換会でお世話になった方々に相談した結果、集会場の整備を行うことになりました。地元の要望に応えるため、集会場の土地の法面を整形後、駐車場の砂利敷きを施工。地域交流の一環として行った今回の取り組みは、後日、地元より感謝状をいただき、道路事業の信頼と理解を得ることができました。

■ 製造現場で学ぶ授業



平成26年7月、九州産業大学工学部都市基盤デザイン工学科の学生97名が、アスファルト混合物の製造過程や品質管理について学ぶ授業の一環として、玄海アスコンを訪れました。

当日は、骨材から混合物が製造されるまでの一連の流れや試験機械につ

いて説明を受けました。

参加学生からは積極的な質問が寄せられ、普段の講義ではなかなかイメージしにくい製造現場の様子を垣間見ることができ、有意義な見学会となりました。